

○土壌改良資材の施用による土壌環境の構築と、薬剤散布適期連絡システムを組み合わせた防除技術体系により、イネ稲こうじ病を効果的に防除できます。

時期に応じて①～④の対策を実施する。

①発生量の評価と防除計画の作成(秋～冬期)

聞き取り調査を実施し、防除が必要な圃場について翌年の対策を検討

土壌改良資材を選択し、防除薬剤との組み合わせを決定

発生量 (土壌菌量)	聞き取り調査結果
多	圃場が真っ黒に見える
中	圃場に入って数歩あるとすぐ見つかる
少	畦畔に立ち圃場を見渡すとすぐ見つかる

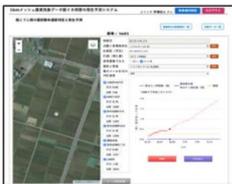
②土壌改良資材の施用(冬期～移植前)

「**転炉スラグとその粒状資材**」、及び「**生石灰**」
(粒状苦土生石灰:粒径が5-10mmのもの)を施用

③薬剤散布適期連絡システムの防除支援情報を利用した適期散布(移植後～出穂前)

メールで配信される適期情報をもとに薬剤を散布

※システム利用には農研機構への申請が必要



登録された薬剤の散布適期に入りました。
(7月21日)

④発生量の把握と病粒除去の判断(収穫前)

①と同様の方法で発生量を把握

多発生の場合は**粗選器**や**色彩選別機**で病粒を除去



①～④を繰り返し実施

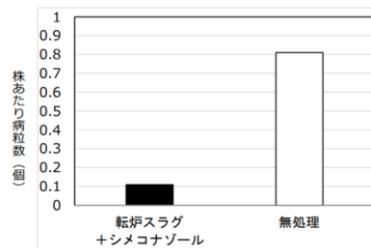
土壌改良資材と防除薬剤の組み合わせ

以下の資材・薬剤の組み合わせを推奨

転炉スラグ+シメコナゾール粒剤
生石灰+シメコナゾール粒剤
銅剤のみ

防除事例

転炉スラグの土壌混和と薬剤の適期散布による実証事例



転炉スラグ300kg/10aの土壌散布・混和を4月26日、シメコナゾール粒剤4kg/10aの湛水散布を7月26日に実施
無処理:無散布
イネ品種:きぬむすめ
調査月日:9月3日

転炉スラグの土壌混和と薬剤散布適期連絡システムを用いたシメコナゾール粒剤の適期散布を実施
⇒株あたり病粒数が約1/8に!

詳細

農研機構「土壌改良資材の施用を基本としたイネ稲こうじ病の総合防除技術」

https://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/carc/2020/20_071.html

資料作成協力:農研機構

○イネ稲こうじ病の防除には、以下の薬剤の使用が有効です。

【シメコナゾール剤】

モンガリット粒剤

<https://www.mitsui-agro.com/products/20979/>



モンガリット 1 キロ粒剤

<https://www.mitsui-agro.com/products/21782/>



【銅剤】

ドイツボルドー A

<https://www.hokkochem.co.jp/archives/nouyaku/7381>



Z ボルドー 粉剤 D L

<https://www.nichino.co.jp/products/query/id2.php?id=121>

